

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 姫島村立姫島中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒872-1501
大分県東国東郡姫島村2108番地の4

E-mail a42160@oen.ed.jp

Website http://tyu.oita-ed.jp/himesima/himesima/

幼児児童生徒数 男子 21 名 女子 11 名 合計 32 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、平成28年度から文部科学省による教育特例校の指定を受け、総合的な学習の時間を「ふるさと科」とし、平成25年9月から認定を受けた「おおいた姫島ジオパーク」を中心に、ふるさとの自然や環境、伝統文化等について学ぶことを通し、「ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとに貢献できる生徒」の育成を進めてきた。

ESDの視点から「①地域理解プロジェクト」と「②地域貢献プロジェクト」を実施することにより、地域の持続可能性への理解を深め、国内外の諸課題との関連性も意識しつつ、持続可能な社会の担い手として必要な以下の知識や能力・態度の育成をねらいとし、地域の課題解決に取り組んだ。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| a. 批判的に考える力 | b. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| c. 多面的・総合的に考える力 | d. コミュニケーションを行う力 |
| e. 他者と協力する態度 | f. つながりを尊重する態度 |
| g. 自ら進んで参加する態度 | |

2つのプロジェクトを通して学んだことや考えたことを「はがき新聞」や各種フォーラムで発信し、他者との連携・協力を深める。

① 地域理解プロジェクトに係わる学習

5月に各学年が、おおいた姫島ジオパーク拠点施設を訪れ、展示物を見学したり、専門員からの講義を受けたりした。また、7月に阿蘇ユネスコジオパークを訪問し、九州内の子供たちと交流した。主として以下の事項をねらいとした学習活動を行った。

- ア. ジオサイトの特徴を学習し、地質的な重要性和それに基づく産業や人々の暮らし等を理解する。(前述のcに関連)
- イ. ジオパーク学習や県外ジオパークとの交流をとおして、情報を収集し客観的に考えたり、他ジオパークとの類似点・相違点等を学習したりする。(前述のa、cに関連)
- ウ. 「はがき新聞」を活用し、得た情報を他者によりよく伝える方法を考える。(前述のdに関連)
- エ. 県外ジオパークを学習する子供たちと積極的に交流する。(前述のe、gに関連)

② 地域貢献プロジェクトに係わる学習

地域の方を講師に招き国選択無形民俗文化財「姫島盆踊り」に関する講話を聴くとともに、踊りを練習し、8月14日(月)・15日(火)に行われる「姫島盆踊り」に中学生として出場することにより、主として以下の事項をねらいとした学習活動を行った。

- ア. 地域の方から、踊りの歴史や未来への展望を聞き、自分たちが果たす役割について意見交換する。(前述のb、eに関連)
- イ. 地域の方の指導で伝統踊りを習得し、伝統文化を伝え保存することの大切さを学ぶ。(前述のe、fに関連)
- ウ. 「はがき新聞」を活用し、得た情報を他者によりよく伝える方法を考える。(前述のdに関連)



①-1 拠点施設での学習



①-2 県外交流での発表



②-1 伝統踊りの習得



②-2 伝統踊りの披露

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

九州や県内のジオパークに関するパンフレットやウェブサイト、姫島ジオパーク紹介DVD、書籍『姫島の歴史～ロマンあふれる島への誘い～』

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

平成29年度の教育課程における「ふるさと科」の全体計画に、ESDの視点を基にした「育てようとする資質や能力、態度」や各教科等との関連を明確にした上で、年間指導計画の中に指導内容（単元）を定めている。さらに、それぞれの指導内容に前述のa～gに基づいた目標を掲げている。また、指導方法として以下の3点を主な方針としている。

ア 課題設定や課題解決の方法を習得させる指導の工夫
イ 仲間との関わり合い、生き生きと活動する学習活動の充実
ウ 他教科、領域での学びを発展させる学習支援

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

連携型小中一貫教育の推進のため、姫島小学校と連携しながら教育活動を進めている。小中一貫教育推進組織の中の部会の1つに、「地域協働部会」を位置づけユネスコスクールに関する取組を推進している。

本年度は、小中合同の研修会において大分県教育委員会から講師を招聘し、ユネスコスクールについての研修を行ったり、福岡県大牟田市のユネスコスクール全国大会や、国立教育政策研究所教育課程研究センター指定を受けた大分県内のESD推進校の研究発表会等に参加したりして、研修の場等で還流を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

平成29年度の教育課程における「ふるさと科」の全体計画に、学習の評価として次の3点を掲げている。「活動をとおして身に着けた力を振り返るシートの工夫」「活動ごとの狙いに対する到達度を看取る評価の実施」「自由記述形式による個人内評価の在り方」

今年度は、教師の観察やワークシート、「はがき新聞」の記述内容、生徒の感想、地域講師等からの感想・意見等の中から、指導内容(単元)の目標にどれだけ近づくことができたのか評価した。

成果として、「自分の気に入ったジオパークについて、『はがき新聞』等で紹介することにより、より深く調べてまとめようとする態度が育った」「ふるさとの良さを伝えたいという態度の育成につながった」等が挙げられる。

しかし、1年目ということもあり取り組みに個人差があるなど、教職員の共通理解がまだまだ不十分であった。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

本年度から本格的に研究や視察等を行いつつ取組を進めている状況であるため、ESD推進拠点としての十分な活動成果は挙げられていない。

しかし、当校では「おおいた姫島ジオパーク」の認定を受けてから、地域の学習に本格的に取り組むとともに、県外ジオパークとの交流学习や、それらを通じて学んだことや自分の意見等を「はがき新聞」にまとめて地域住民や観光客等に配布したり、各種シンポジウム等で学習成果の発表を行ったりしてきた。

それにより、ジオパーク学習の内容を再確認し理解を深めるとともに、相手(対象)を具体的にイメージして伝わりやすい文章を書く力や、大勢の前で自分の意見を言うことのできる力がついた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

今年度、ユネスコスクールに加盟したばかりで、また、島という地域性もあり、学校以外の他団体との協働や交流などは行われていない。

ただ、「ふるさと科」の単元の1つに「異文化交流」（活動分野6）があり、県内の大学（APU立命館アジア太平洋大学）生と交流を行っている。

また、校内における効果的なESDの実践の方法等について福岡県大牟田市教育委員会に電話で問い合わせ等を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は実施していない。

ユネスコスクール公式Webサイトへログインし、ユネスコスクールに関する情報を得たり、送信されるメールを確認したりし情報収集を行った。

また、福岡県大牟田市のユネスコスクール全国大会や、国立教育政策研究所教育課程研究センター指定を受けた大分県内のESD推進校の研究発表会等に参加したりした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

- ESDの視点で学習活動に取り組みさせることにより、生徒が地域課題の解決に寄与しようとする意識が身についてきた。
- 教職員にESDの視点が徐々に浸透し、これまでの学習活動をESDの視点で捉えなおすことの重要性を理解できた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ESDの視点や他教科との関連を更に意識した「ふるさと科」の学習を推進する。
- 他地域のどのようなユネスコスクールや、団体と協働・交流等ができるのかを検討し、取組を推進していく。
- 小中の連携を強化し、「ふるさと科」の指導内容や指導方法をさらに見直し、小中の発達段階に応じたカリキュラムの作成をする。
- ESDに関する教職員研修の充実を図る。